

鎌倉大草紙

作者: 不詳

成立: 不詳



解題

Keyword

- 鎌倉公方
- 関東管領
- 軍記物語
- 「太平後記」
- 「鎌倉大日記」
- 東常縁
- 小栗判官伝説

鎌倉公方足利氏と関東管領上杉氏の動向を中心に、康暦元年(1379)から文明11年(1479)までの約1世紀にわたる関東の動静を記録した軍記物語。別名『太平後記』。この時期の関東の歴史研究に資する重要な史料である。

■ 成立経緯

本書は、二巻本が『群書類従』所収により世に知られるところとなった。しかし、当該時期の関東の動静を知るのに欠くことのできない永享の乱、結城合戦といった事件の記述がないため、欠部分があるとみられていた(この欠部分が『持氏記』として流布しているものに当たるとの説(黒川真頼)もあったが、これは菅政友により否定されている)。その後『史籍集覧』に、永享の乱、結城合戦の叙述を含む三巻本『鎌倉大草紙』(以下『大草紙』)が収録された。発行者・近藤瓶城が、この三巻構成を「全本」と紹介したため、本書は三巻本が原態であるとの認識が一般的となった。しかし、早くは幸田成友がこれに疑問を呈し、二巻本を原態とする指摘をしており、本書の成立について十分な研究がなされたとは言い難い状況であった。しかしながら近年、田口寛が本書の総合的書誌調査を行い、成立過程に関する研究が進みつつある。

田口の「『鎌倉大草紙』原態本文への遡及」によれば、二、三巻本の分類で検証した場合、二巻本が原態に近いとされ、その根拠として2点が示されている。1点目は、三巻本の中、下巻部を比較すると、記述が重複する部分や、矛盾が見られる点である。連続して中、下巻と叙述された場合、そのようなことが生じることは考え

にくい(この点は、既に幸田成友が指摘している)。2点目は、『大草紙』が『鎌倉大日記』(彰考館本)(#3)を参照した可能性が高いとした上で、二巻本のほうが『大日記』の記述に近い点である。さらに田口は、巻数による分類自体に異を唱え、伝本所蔵館により8つに分類している(彰考館本系・新田本系・早大6冊本系・山内本・中山本・鶴舞本系・鈴木本系・東博本系)。これらについても比較検証し、いわゆる二巻本系統の彰考館本が最も原態に近いと結論付けている。

なお作者については、東常縁(とう・つねより)の和歌が多数収められることから、この流れを汲む者との説もあるが、不詳とするのが通説である。

■ 内 容

室町幕府において政治体制確立が進む契機ともなった康暦の政変(1379)から書き起こし、小山、伊達、上杉禅秀、小栗といった関東諸将による争乱、そして文明11年(1479)の太田道灌による下総臼井城攻めまでの1世紀にわたる関東の動乱が記述される。書名の「鎌倉」は、地名を示すだけでなく、鎌倉公方や関東管領といった職を象徴的に表しているとされ、内容も、関東全体の動向を俯瞰的に捉えている。また関東に軸を置くその視点は、関東が安泰に治まることを期待する姿勢をうかがわせる。

年次等に誤りが散見されるものの、複数の史料を基に編纂したとみられ、史料価値は高いとされる。また、東常縁らの和歌なども収められ、叙述的精神の衰退が見られる室町・戦国軍記にありながら、文学的にも見るべき内容をもつ作品との評価がある。

■ 諸 本

本書の伝本は、内閣文庫、宮内庁書陵部、蓬左文庫などを含めて現在約50本が確認されている。上述のとおり、田口がこれについて総合的調査を行っており、『古典遺産』53・54号に詳細な報告(「『鎌倉大草紙』伝本書誌目録稿」)がある。また、天理図書館所蔵本、早稲田大学図書館所蔵本についてはそれぞれ富永牧太、田口寛が詳細に紹介している。(「『鎌倉大草紙』雑観」「早稲田大学新収『鎌倉大草紙』について」)

■ 小栗判官伝説

浄瑠璃や歌舞伎で著名な「小栗判官伝説」は、応永年間、小栗城が落城した小栗満重の乱(1418-1423)で、自害あるいは逃走したと伝えられる満重とその子助重に関係する伝説である。この伝播には時衆が深く関わっていると指摘され、藤沢市とゆかりの深い伝説であるが、これが記される最も古い文献が『鎌倉大草紙』(上)とされる。『藤沢市史4』では、小栗城落城が関東の人々の脳裏に強く印象付けられていた故に、この説話が挿入されたのではないかと指摘している。



史料本文を読む

<翻刻本>

- ◆*「鎌倉大草紙」(『日本歴史文庫8』黒川真道編 集文館1912)
※2巻本 国立国会図書館「近代デジタルライブラリー」で閲覧可
- ◆「鎌倉大草紙」(『群書類従』第20輯 合戦部 巻382 [K08/17/1-20])
- ◆「鎌倉大草紙」(『改定史籍集覧』第5冊 通記23 近藤出版部 1925 [210.08/13/5])
- ◆「鎌倉大草紙」(『新編埼玉県史 資料編8』埼玉県 1986 [213.4/53/8-1]) ※底本:内閣文庫本

<注釈本>

- ◆「『鎌倉大草紙』注釈(1)~(3a)」(『太平台史窓』(1)(2)(7) 大塚書店 1982-1988 [K24/201/1~2(7号は当館未所蔵)]) ※『群書類従』の本文を使用



史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆黒川真頼「鎌倉大草紙考」(『足利持氏滅亡記』甫喜山景雄 1883(我自刊我書)再録『黒川真頼全集4』黒川真道編 図書刊行会 1910 [081.5/6/4])
- ◆菅政友「鎌倉大草紙」(『菅政友全集』国書刊行会 1907 [210.1/2])
- ◆*富永牧太「『鎌倉大草紙』雜観」(『日本文化』第5・6合併号 天理大学 おやさと研究所編 天理大学出版部 1936)
- ◆幸田成友「鎌倉大草紙について」(『歴史地理』vol.68(4) 日本歴史地理学会 1936 [Z210.05/5] 再録「幸田成友著作集6」中央公論社 1972 [210.08/97/6])
- ◆「鎌倉大草紙」(『室町軍記総覧』古典遺産の会編 明治書院 1985 [913.43/10])
- ◆*若林秀幸「東国の通史的諸軍記に関する一考察－『鎌倉大草紙』『鎌倉物語』の上杉禅秀の乱関係軍記をめぐって－」(『軍記と語り物』(23) 軍記物談話会 1987)
- ◆*田口寛「『鎌倉大草紙』伝本書誌目録稿」(『古典遺産』(53)(54) 古典遺産の会 2003-2004)
- ◆田口寛「早稲田大学図書館新収『鎌倉大草紙』について」(『早稲田大学図書館紀要』(51) 早稲田大学図書館 2004 [Z010.5/20])
- ◆*田口寛「『鎌倉大草紙』一刊行本文の性質について－『史籍集覧』所収本の形成情況－」(『日本文学研究』(44) 大東文化大学 2005)
- ◆*田口寛「『鎌倉大草紙』原態本文への遡及」(『軍記と語り物』(41) 軍記と語り物研究会 2005)

<小栗伝説について>

- ◆服部清道「小栗判官伝説の成立考」(『わが住む里』(10) 藤沢市図書館 1958 [K05.52/1/10])
- ◆「小栗判官と照姫」(『藤沢市史4 通史編1』藤沢市 1972 [K21.52/6/4])